

令和6年度 第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会

※18時30分開会

※20時00分開会を目処

<p>学校教育課長</p>	<p>定刻となりました。本日は、お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、開会のあいさつを教育部長よりお願いします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>ただいまから「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。 この委員会は、「裾野市の教育のあり方検討委員会設置要綱」に基づき設置されるもので、教育効果を高めるための委員会となります。 どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>委嘱状及び任命書の交付を行います。本年度より3名の方が新しく委員になりました。 委員につきましては、事前に座席の方にお配りさせていただいております。よろしくお願いいたします。  次に、教育長より挨拶をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>昨年度に引き続き開催できることになった。よろしくお願いいたします。 この検討委員会は、裾野市の将来の教育の方向性を話し合う場で、こういう意識をもったのは令和になってから。教育環境の変化の中で、どのような方向性をもって進めたらよいかについて、忌憚のない意見をお寄せいただきたい。 今年度引き続きプロジェクト会議を行い、現場の先生方の意見を取り入れていきたい。よろしくお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>議事を進める前に各委員の皆様は、本日初めて顔を合わせる方もいらっしゃると思いますので、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。 名簿順で、お願いします。  (順番に自己紹介)</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それでは、議事を進めます。 それでは、村山委員長より一言ごあいさつをお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>国内の状況は似ているといえれば似ている。第1歩を踏み出し、次の一步を踏み出すプランを作っていきたい。それが裾野らしさにつながっていく。一足飛びにアイデアを出すのではなく、第一歩が次の一步を作っていくというとらえかたでやっていきたい。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、協議事項に入らせていただきます。 ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。</p>

委員長	<p>それでは、議事を進めていきたい。          本日は、資料にあるとおり4つの事項につきまして協議を進めていきたい。          はじめに、提言書の素案をもとに裾野市の現状報告及び課題確認について事務局より説明をお願いしたい。</p>
教育監	(教育監より裾野市の現状と課題について説明)
委員長	<p>報告について、何か質問があったらお願いしたい。</p> <p>次に、(2) 中間報告書、裾野市の不登校対策、向田小・東小で取組について事務局より説明をお願いしたい。</p>
課長代理	(課長代理より中間報告書の説明)
学校教育課長	(課長より不登校対策の説明)
教育監	(教育監より向田小・東小の取組の説明)
委員	<p>不登校対策の一次予防のゴールは？          また、巡回相談員でAの方が一番回数が多かったが、その違いは？</p>
学校教育課長	<p>不登校の一次予防のゴールについては、成果は数字では表せないと考えている。最終的には社会的に自立することが目的と考えているので、高校に行って生き生きと生活する姿が見られれば、その対策としては成功になるのではないかと。</p> <p>相談員の件数の違いは、長年やっているベテランの方なので、関係性をつないでいることが考えられる。また、勤務時間の違いもある。</p>
委員	<p>対策を考える際は、まず現状を把握してということになると思う。かなり具体的な対策が提起されている気がするのですが、現状どのくらい把握した結果かはわからない。この対策をベースにして考えていくのか、それとも新しい対策をと考えていくのか。</p>
委員長	<p>議論と実践は行ったり来たりだと考えている。取り組んでみて、違うかなと気づく。また議論に戻れる。調査だけで考える実践は絵空事になってしまう。</p> <p>そういう意味では、今回伺った話はベースができているととらえてよいのか。</p>
委員長	ベースは出来上がっている。取組の様子を聞いてまた新たに考えていく。
委員	<p>活かしていくことが前提と思いつつ、変えられる部分は変えていくべき。具体的に書いていただいているが、能力やスキルという言葉が多いと感じている。この点は気を付けるポイントではないか。人材育成という点から考えたときに、人材を鍛えるという考え方は失敗が多いと感じている。こういう人材を育てようという人材育成モデルは、成立しないと思っている。教育の問題は、個々の児童生徒の問題ではないという前提に立って考えるべき。その子が何か問題を抱えており、それを何とかしないといけな</p>

	<p>いという施策は、うまくいかないと考えている。これらの人たちは、感度が高いという部分があり、これを解くためには環境を適切に調節していくというモデルとともに人材育成を考えていく。そうすることで、個々の能力が花開き、ウェルビーイングにつながっていく。環境の方を変えていくということにウエイトを置くべき。それで児童生徒が変わっていったら、本当にパラダイムシフトになっていくと思う。</p>
委員長	<p>実際に困っているのは一人の子供、大人かも。具体的に考えていく必要もある。</p>
委員	<p>個別具体の問題に着目するのは大事だが、その子の周りの環境を同時に調節していくという考え方が大切だと思う。</p>
委員長	<p>学校でやるとソーシャルスキル、レジリエンスを高めようという考え方がちがち。</p>
学校教育課長	<p>その子たちが生きやすいように周りの環境を変えていくということはやっている。</p>
委員長	<p>それについていうと、分離することによって変えるのではインクルーシブではない。</p>
委員	<p>SOS の出し方教育という話も書かれていて、段階的に手を打たれている。学びの森の取組で気になったところがあって、業務内容に「頼もしい教員」というのが書かれていた。地域住民や教員が頼もしい存在にならなければいけないということになると、息苦しさを感じてしまうかもしれない。子供の相似形が大人にも当てはまるということもあると思う。教員や教育に関わる地域住民もどこかでヘルプを出せるようになると頼りあっていくという感じになるのではないか。何かやっていることがあったら教えてほしい。</p>
学校教育課長	<p>学校も年々、若い先生が増えている。若い年齢で学年主任や他の主任を任されている。学年主任を育てていきたい。学校で課題があったときに、学年団やチームで、組織で、動けるようにしたいと、研修を考えている。</p>
委員	<p>学校の教育力を高めていくという取り組みも、子供たちの視点と同じような視点で進められるとよい。周りにいる人たちも同じ視点で関わっていくとよいと思っている。</p>
委員長	<p>昨年度の議論の中でも、支援について考えたときに、全員が支援の対象。大人も含めてみんなが支援の対象と昨年度も出てきた。文章として残らないと自分たちも忘れてしまうので少し怖いと思う。</p> <p>次に、(3) 裾野市の目指す教育について 事務局より説明をお願いします。</p> <p>(教育監より説明)</p>
委員長	<p>核になるのが「人とつながる」なのだが、次の(4)と一緒に議論してよいか。</p>

	<p>(4)人と人をつなぐ教育を実現するにはどういう視点で教育を進めていったらいいか,事務局より説明をお願いします。</p> <p>(教育監より説明)</p>
委員長	つながりや多様性、地域ということについて、皆さんの御意見をいただきたい。
委員	難しくて……。最近思っていることは、子供も大人も、知っている人には挨拶しやすい。知り合わないと子供たちも挨拶をしない。つなげる場を作るのも地域の教育。「子供たちのために」となっているが、子供がやりたいといったときに「いいよ」と言える時間や環境があるのか。子供が一番やりたいと思っているときに、それを認めてあげられるともっと良くなると思う。
委員長	誰の視点で話をしているのか。子供がある意味置いてけぼりになっているところがある。やりたいことがあるときにやらせてくれるところがあるというのはよいと思う。
委員	子供がやりたいと言ったら、ドッジボール大会でも地区を飛び越えてできるとよい。
委員長	大人がメニューを用意するのではなく、子供のやりたいことをということになるとよい。
委員	子供の数が減少している。地域のリソースが無限ではない。大学から戻ってきたときに、地域がさびれてきているのを感じた。地域の活力が衰退している、縮小していることも事実。
委員長	地域の話になると、地域の方が主語になってしまうことがある。
委員	親として、子供には地域に戻ってきてほしい。戻ってきてもらえる環境を作っていきたい。
委員長	高校教育の議論の際に、静岡は働く場所がいっぱいあるという話になった。実際にはあるんだけど、地元ではその話にならないことがある。小中の間に地元のことをちゃんと知らないまま、進んでしまうことがあるのかもしれない。地域は自分たちが帰ってこれる場所ということが大切。
委員	今の話に関連して、人が減っていくことが前提になると、つなげることがとても大切。リクルートの資料では、2040年には2100万人の人が足りなくなる。教育以外で、地域にとともにリアルな学びを探る。希望は見いだせる。つながる、まぜるはとても良いキーワードとなる。
委員長	地域の方でもチャレンジしてほしいところはある。例えば農業では、AIを使って現状を把握しながらしていくこともできる。ボーダーを超えていくような成長の仕方もよい。そういう方向性だったら自分もやってみたいという高校生も出てくるのではないかな。
委員	地域の人々がどうやってアクセスしたらいいのかという問題もある。高校

	生、どうですか？
委員	大きな企業もあるので、そういうところに社会科見学に行っておくと、大学に行ってからでもまた地元の企業に就職するというのはあると思う。
委員長	うちの地域はとっと思っていても、英語を使っている人がたくさんいたり、実際に企業に行ってみたりするのが良い。
委員	端末もあるので、調べて終わるということがあって、実際に行って経験してということは少ないと思う。
委員長	どんなことをやってほしいですか？
委員	やっぱり体験をさせていただきたくて、調べた後実際に体験することで学びにつながるということもあると思うので、地域でやってもらえると学びがよくなると思う。
委員長	地域のために学校がかかわるみたいになっているが、地域が変わっていくことによってほかの人を巻き込んでいくような地域であってほしいと思います。
委員	地域の魅力発信に取り組んでいる高校があって、そこで学んでいる高校生がそのまま就職してほしいという流れでない方がうまくいっている。10年後か20年後、次の世代に還元してくれるとありがたいというスタンスだと、取組につながっていると思う。地域の要素が身近にあって、人と人がつながっていくという視点の他に、市外の人とつながっていくという視点があるとよい。
委員	地域のことで話が出てきて最近感じることは、裾野の5つの地区の特徴があった。裾野自体が1つで考えていきたい。市内で地区が混ざり合って、1つの裾野ができれば良いと思う。そうすることによってそれぞれの地区の良さをもっと知れるようになって面白いと思う。
委員長	多様性の話とくっついているというところがある。
委員	先生方が忙しいと聞く。今は生徒の数が少なくても先生方は忙しい。先生方が子供と話す時間がない？仕組みが本来の教育から離れている？人間対人間で子供たちを大きく育てたい。
委員長	環境が話についてこないというのが厳しいところ。先生方の仕事をもっと子供たちについていけるように、取組の輪を大きくしていかないと、地域や先生が全部やって大変になるという形はまずいと思う。
委員	リアルな学び、子供たちが主体的に何かをしたいと思ったときに、経験がないとできないこともある。コミュニティに助けをもらって経験を積める。忙しくても子供ものためにリアルな学びを考えてあげたい。経験をさせてあげたいと思う。
委員	教え子に学校から職業のことについて語ってほしいという依頼があったという話を聞いた。子供たちにとって一生懸命生きている若い人たちが語る

	<p>という話だった。また、心に食い込む教育、人と人がつながる教育と考えたときに、心がつながっていく、子供の心に迫っていく地域だと子供も反応するのではないか。教員がどれだけ子供に近づけるか、そういう意味での合理的配慮が必要ではないか。</p>
委員長	<p>色々話を出していくと、キーワードの中身が充実していく。「地域」が単語ではなく実態になる。裾野の実態をみんなで出し合っていくことに意味がある。そうすることで議論の中身が充実する。</p>
委員	<p>ちゃんとやろうとしない、それっぽくやろうとしない。大人も遊びながらやっていかないと、子供にも刺激を与えられない。マルチステージ型に変わっている。人生の多様化が進んでいるので、大人が子供と共に学ぶ、遊ぶ。いろいろな社会にふれていくということができるとよい。</p>
委員	<p>市から企業にお願いをして、ボランティアとして来てもらうようなところはあるのか。</p>
委員	<p>あります。公務支援の話ではなく、強みを生かした連携の仕方がある。須山中はトヨタと連携した防災授業を行った。</p>
委員	<p>出前講座のような形でやっているところもある。通常の授業でちゃんと履修したという形になるとハードルが上がるし、教員の資格の問題もある。ただ、学校によっては最先端の企業に来てもらってプログラミングの授業をやっているところもある。他にも、花火の職人に来てもらって科学の授業をやっている取組もある。</p>
委員	<p>出前授業は聞いたことがあったが、もう少し踏み込んだところがあるかなと思った。</p>
委員	<p>まずは委員がつながっていくことが大事だと思った。</p>
委員	<p>こういう意見を聞いていて、難しい話もあるが個々の能力を求めるのではなくて環境が変わって行って、夢をかなえていくというのはよい視点だと思う。</p>
委員	<p>漠然と感じたのは、色々な学校が持っている人材は裾野市の財産。教材もそうだが、有効に活用していきたい。</p>
委員	<p>須山中の地元の工業団地の企業で世界一のものがあると出前授業で初めて知ったことがあった。それを通して興味を持つことがあったら選択肢が増えるし、リソースをどうやって子供たちの心に届けるかというところに環境の整備があるのかなと思っている。</p>
委員	<p>普段は考えることがなかったことを議論できてよかった。</p>
委員	<p>問題意識をどう解決するかという方がじっくりくる。ここでいろいろな話をしながら問題식을共有して行って、解決策を考えていく。一緒に知恵を絞って考えていき、よくしていきたいという思いがある。</p>
委員	<p>様々な資料をいただきありがとうございました。集まって議論している場</p>

	<p>を見て、裾野の子供にとってとてもありがたいことだと感じた。次回もよろしくをお願いします。</p>
委員	<p>ジャズセッションと同じようにいろいろな人がアイデアを出していく中で、きっと何かが起こるんじゃないか。何かよくわからないことが何か社会を変えていくということがあるのではないか。</p>
委員	<p>地域の中の様々なリソースに気づく光を当てる。おやじの会的时候会員のリストを作ると面白いと感じたことがある。</p>
委員長	<p>行政と役割分担をしながら、勝手なことを言いながらよく考えてみると大事だという話をできるようにしていきたい。</p> <p>それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆様のご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次に「その他」となります。</p> <p>次回の日程につきましては、9月17日(火)18時30分からを予定していますので、よろしくをお願いします。事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。</p>
学校教育課長	<p>委員の皆様から何かございますか。</p> <p>無ければ、閉会に移らせていただきます。</p> <p>閉会のあいさつを教育部長、お願いします。</p>
教育部長	<p>以上をもちまして、「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。</p> <p>お疲れ様でした。</p>